

# 小平図書館友の会 会報42号

ネット公開版



発行日 2019年5月15日  
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>  
連絡先 ブログ掲載のメールアドレスへ

## もくじ

平成から令和へ……………	1	学習会報告……………	6-7
第21回チャリティ古本市 報告……………	2-4	声に出して本を読む会	
図書館友の会 年間活動……………	4	読書サークル・小平	
会員の声……………	5	図書館について学ぶ会	
		YAを楽しむ会	
		図書館協議会報告……………	7
小平市立図書館の「ブックスタート」…	8		
講演会のお知らせ……………	8		

## 平成から令和へ

会長 剣持 香世

5月1日、令和元年となりました。天皇の崩御とともに変わる元号と違って今回はワクワク感が大きかった気がします。私だけでしょうか？ 昨日と変わらないはずなのに新しい時代がやってくるような、しかもよりよい方向へ。みんなが望むいい時代になるといいですね。

さて世の中の公共図書館、平成の時代に大きく様変わりしていきました。花開く…とまでは言わないものの新しい機能や感覚が加わり、市民のニーズに応え、明るく親しみやすい市民の施設として認知されていったように思います。小平市では15分歩けば図書館があるという恵まれた環境です。インターネットの時代になり、読書離れが進んだと言われる昨今でも図書館と本が大好きな人たちにとってはこの上なく幸せなことです。しかし建物の老朽化、財政の不安など曲がり角に来ていることも事実です。小平図書館友の会ではそういった動向にアンテナを立て、図書館の恩恵を享受しながらも新しい時代の図書館がどういう方向に向かうのか見守りたいと思っています。

カフェがある図書館や図書館グッズを売る図書館が生まれてきたように、今までは考えもつかなかった図書館が令和の時代に出現するかもしれませんね。まだまだ進化し続けるみんなの図書館であってほしいと願っています。

今号では小平図書館友の会の活動を詳しく載せました。ぜひご入会いただいで一緒に図書館ライフを楽しみませんか？

## 第21回 チャリティ古本市 報告

準備期間 2019.3.19(火)～3.22(金)

販売日 3.23(土)～3.24(日)

第21回チャリティ古本市が、3月23日(土)と24日(日)、小平市中央公民館のギャラリーでおこなわれました。

\*

昨年から会場設営日を設け、チャリティ古本市ウィークは6日間になり、19日から24日まで、会場設営、寄付本の受付(集本)、本の整理とひたすら準備を進め、古本市の当日を迎えます。私たちは、この本に囲まれた日々を、大変ながらも各々至福の時と感じながら楽しんで作業しています。

\*

今年の特徴として、小平市が4月からごみ有料化になる影響か、昨年よりも5,000冊以上多くの本が集まり、嬉しい悲鳴となりました。また昨年からの申し送り事項だった「のぼり旗」を図書館、公民館の敷地内の目につくような場所に10本立てて、古本市のムードを盛り上げ、お客さんを増やすことにも繋がりました。

\*

毎年進化している古本市ですが、課題もはっきりしてきました。

ひとつは、本が多かったせいか、参加者の高齢化を今年は痛切に感じました。市内の大学等に設営と片付けのボランティア募集ポスターを貼っていますが、今年はとうとう参加者なしで、いかに若いパワーを取り込むか、その方策を真剣に検討していく必要性を感じました。

もうひとつ。残本は来年度用に3,000冊ほど残しその他は町田市にある共働学舎という福祉施設に取りに来ていただいておりますが、できたら、もっとたくさん本を売りたいと考えています。探していた本、お気に入りの本を見つけて嬉しそうに帰って行くお客さんの顔を見るのが、いつのまにか私たちのエネルギーの基になっているのかもしれませんが。そんな本の橋渡し、古本の活用をもっと出来たらと思います。そのためには古本市のさらなるPR、売れるような本の並べ方などなど、まだまだ工夫が必要です。

\*

古本市の売上金から経費を差し引いた純益金は、例年通り小平市の図書館に物品の形で寄贈し、東日本大震災等の被災地図書館にも日本図書館協会を通して寄付金を送ります。

本を寄付してくださった方々、お買い上げくださった方々に深く感謝いたします。来年も開催予定ですのでどうぞお楽しみに。そしてご協力をよろしくお願いいたします。

- 集本数 24,417冊(昨年度残本を含む)
- 入場者数 約1,440人
- 作業参加者 43人(会員、他)
- 販売冊数 9,644冊
- 図書館寄付冊数 252冊
- 売上金 328,906円

(内田清子)

【会場設営】 3月19日



会場設営



本の運び込み

【寄付本受付】 3月20日～3月22日



準備期間中  
昼休みのだんらん

【販売日】 3月23日～3月24日



のぼり旗



販売初日  
会場のにぎわい

## 古本市に参加してくださった方の声

～ 自分を知り、書籍を知り、地域での  
つながりを知る ～ (会員 芳賀普子)

一年ぶりねー、と思いながら中央公民館に着き、有能で頼りになる「友の会」の仲間たちに再会して、さっそく、本の山ならぬ、本の陳列棚の私の担当箇所に行きます。

楽しくも、やはり疲れる年一度の「小平古本市」前日です。私のお手伝い当日には、持ち込まれた古本のほとんどが、分類されて並べられていて、これだけでも大仕事でしょう、と感心する間もなく、高価本の値付けのチェックなどえらそうにさせていただきます。少しでも収益が上がるよう、本の価値を下げたくないからです。安い値段で付けられた本がかわいそうになって、迷うところです。

私は高めに値段をつけてしまいます。そして開催当日、シャッター越しには、外に行列を作って本を食い入るように眺めて目星をつけている人の姿も見えます。入り口が開けられると同時に駆け込んで、1冊100円のコーナー、辞書コーナーに駆け付ける人は、さすがお金を用意してきている。悪いけれど、私もプロ並みの売り手として、100円コーナーなのに「これいくら？」と聞かれると「200円」とか「300円」とか答えていました。私自身も100円コーナーの本を1冊200円で3冊購入してしまいました。本が好きだからこそ、価値を知って値段高めに言えるのですよ。

いくら安くても売れ残りは出ます。終了日コンテナ車が来て、売れ残りを積み込みますが、この時ほど自分の背が高く力があつたらいいのに…、と思ったことはありません。私の背丈と腕の長さではどうしようもありません。力の無い私、でも本が好き、出来る所だけでもお手伝いさせて頂ける「友の会」です。

年間の日本の書籍発行点数は雑誌を除いて約75,000点ということですが、「友の会」に持ち込まれた冊数は、その約3分の1である24,417冊ではないですか！ 地域で古本を通して結ばれ、本を通して学んでいる古本市のみなさん、来年もご一緒にお手伝いさせて下さい。



古本市最終日  
会場の後片付け

～ 「小平図書館友の会」をみつけて ～

(東寺方図書館友の会 櫻井清蔵)

<はじめに>

2年前「東寺方図書館友の会」を作ろうと考えていた頃、各地の「図書館友の会」のホームページを見ていて「小平図書館友の会」を見つけました。「活発な友の会が近隣にある」と嬉しかったです。東寺方図書館は多摩市にあります。

\*

<懇談>

「東寺方図書館友の会」は立ち上がりましたが、まだ模索最中でもあります。ヒントを頂きたいと「小平図書館友の会」への訪問を申し込むと快く受け入れてくださり、今年1月に懇談することができました。ありがとうございました。「友の会」の運営、図書館との付き合い方などで、多くのヒントを得ることができました。「子ども文庫連で子どものための活動をしていた仲間でも自分も楽しみたい」と「小平図書館友の会」を作られた当時のお話は印象的でした。

\*

<古本市>

「古本市」には準備最終日の半日だけ参加させていただきました。公民館のギャラリーに配置されていた本の多さに驚きました。会員の方々が仕事を分担し作業していました。昼食時と休息時はみなさんと一緒にお弁当、持ち寄られたお菓子、漬物などを食べながら盛り上がっていました。「古本市の準備自体も楽しんでいる」と見えましたし、私も楽しみました。本に関わる作業は楽しいです。準備の整った会場を見て「毎年好評のチャリティ古本市」とのことですが、「これはそうだろうな」と思いました。

古本市の速報値(来場者数、本の数、売り上げなど)をみて、すごいと思いました。これを21年も続けておられるのは大変なことだと思います。

\*

<最後に>

新しい「東寺方図書館友の会」ですが、今後も「小平図書館友の会」との交流をさせていただけたらと願います。よろしく願いいたします。

これからもますます「小平図書館友の会」の皆様が「友の会」の活動を楽しまれ、本を楽しめますように！



～ 古本市に初めて参加して ～

(会員 小倉節子)

図書館友の会に入会したのが昨年古本市の時でした。古本市には何回かお世話になりましたが、その時この様に市民の方に古本を提供するとは素晴らしいと、とても感動したことを覚えています。

なにか手伝うことはないかと思っていたところ、友の会入会のお知らせが目に入りました。すぐに入会したのですが日程がなかなか合わず、今回の古本市一日だけの手伝いとなってしまいました。参加して驚きました。寄付された本が2万冊以上、多種に亘っています。これらの本をそれぞれに分別し販売にもっていく、また終了後の本の整理は本当にどれ程のご苦労があったかと新たに驚き頭がさがりまし

た。今回で21回目の古本市とのこと、このように諸先輩の方々の努力の積み重ねが今に繋がっているのだと、継続の大切さを思いました。市民の方が主でしょうが寄付された本も比較的新しく、状態の良い本が多く、来られたお客様も喜々として本を探していました。なかには仕事としているのでしょうか、山のように本を買われている方達もいたりして楽しい経験でした。

当日は一日だけの手伝いで、正直いって申し訳ない気持ちでいっぱいでした。慣れない私に皆様親切にご指導してくださり感謝でした。徐々にですが古本市だけでなく他の行事も参加できれば良いなと思っています。ありがとうございました。

## 小平図書館友の会 年間活動の紹介

小平図書館友の会は発足当時より10月から翌年9月を一年度としています。

**10月** 定期総会と懇親会

**11月** 会報発行

**12月** 古本市世話人会発足——世話人会はこのあと本番までに3回おこなわれ、寄付本の収集、運搬、整理、お手伝い会員の要請、広報、係担当からお弁当の手配までいかにスムーズに運営するかが協議されます。世話人は毎年募集します。本に囲まれて幸せ～という人が多いです。

**1月** 新年交流会——地域センターや福祉会館の部屋を借りて行います。おすすめ本を持参して披露する人も多くいろいろなジャンルの本の情報が得られます。美味しい差し入れや恒例ビンゴも楽しいです。

**2月** ハンディキャップサービス交流会への協力——以前は友の会主催の交流会でしたが、3年前から図書館の主催、友の会の協力となりました。障がい者だけでなく外国の人も含めて誰でもが利用しやすい図書館を目指すということで点字、音訳、布の絵本づくりなどのボランティアさんや社会福祉協議会職員も集まって情報交換をします。

**3月** チャリティ古本市——友の会としては最大級のイベントです。今年は21回目。回を重ねるごとに充実し、進化し、手際もよくなっています。一方お手伝い会員の高齢化が進み、現在解決策を模索中です。

**5月** 会報発行

**6月** 文学散歩——昨年は新宿区の漱石山房記念館とその周辺を訪ねました。団体で申し込むと案内が付くことが多く、より詳しく知識を得ることができてお得です。

講演会——昨年は評論家の川本三郎さんを招き、川本さんが寅さんの旅を追隨して書かれた著書『男はつらいよ』を旅する」をテーマにお話しいただきました。入場をお断りするほどの人気でした。

**7月** 夏の会員交流会——暑気払いを兼ね、近隣のお店で開きます。飲みながらの読書談義だったりしますがアルコールが苦手な人でも十分楽しめます。お料理も美味しいですし。

**8月** 図書館職員の方々との懇談会——図書館を利用する立場から疑問点や希望を発言できます。また図書館側からの報告や予定を聞くことができます。

**9月** 講演会——昨年は6月の1回でしたが年によってはこの時期にも開催することがあります。できるだけ多くの方々の興味に沿うよう企画します。

小平図書館友の会はこのほかにも「声に出して本を読む会」「読書サークル・小平」「図書館について学ぶ会」「YAを楽しむ会」の4つの学習会があります。また「ハンディキャップサービス学習会」は図書館について学ぶ会と合同で行っています。

詳しくは6～7ページをご覧ください。



## 会 員 の 声 (アンケート)

## ◆ 名前 K. U. (小平市一橋学園)

## ◆ 会員歴 約18年

## ◆ 入会の動機と感想

小川西町に引っ越してきたちょうどその時、小川西図書館が開館しました。なんてラッキー！と思いきげしげと通ってお世話になりました。しばらくして図書館友の会の募集を知り、入会しました。

数年は交流誌を読むだけの幽霊会員でしたが、文学散歩に参加したことをきっかけに役員方と親くなり、読書会に参加し、講演会を聴き、古本市を手伝い、今に至っています。

色々な方との出会いが楽しく、ほんのわずかですが社会とつながっている感があるのが勉強になる気があります。特に古本市では世話人一同知恵を絞り、重労働に骨身を惜しまず働き、そのチームワークは感動的で、胸が熱くなります。

## ◆ 最近読んだ本

『すごいトシヨリBOOK トシをとると楽しみが増える』  
池内 紀 (毎日新聞出版)

ドイツ文学者である池内さんが「老い」に関する数々の気づきを記した。「老化早見表」を作り、何とか楽しく老いる秘訣を見つけようとする。厳しい絶望感もありながら身につまされて吹き出しつつ読みました。

『ヨーコさんの言葉』 佐野洋子 (講談社)

NHK E テレで5分間のシリーズで好きになり。図書館で見つけました。絵本作家の佐野洋子が絵本スタイルで書いたエッセイです。北村裕花の温かみのある挿絵もピッタリで実に楽しい。飾らずへつらわず真正面からとらえるヨーコさんの胸がすくような言葉に元気が湧いてきます。ヨーコさん、お友達になりたかった！

\* \* \*

## ◆ 名前 T. M. (小平市学園西町)

## ◆ 会員歴 約21年

## ◆ 入会の動機と感想

今から31年前義父の介護が終わり、ボランティア登録にと社協へ。様々なボランティアに参加する中で、今は亡きM. Nさんと出会いました。古本市をするので一緒にと誘っていただき入会いたしました。会報作りのお手伝いなどをしたのをついこの間のよ

うに思い出します。一回目の古本市から参加しますので、入会して21年になります。

## ◆ 最近読んだ本

『絶対音感』 最相葉月 (小学館)

小学館ノンフィクション賞受賞

著名な演奏家達の絶対音感に対しての信じられない程のこだわり。生まれながらに絶対音感がある人、幼少から早期教育で身に付けた人など、興味深い真実が書かれています。クラシック好きの私には驚くほどの発見があり、楽しく何度も読み返しています。これは昨年の古本市で出会った一冊です。

\* \* \*

## ◆ 名前 H. I. (東大和市)

## ◆ 会員歴 約11年

## ◆ 入会の動機と感想

7年前まで小平市喜平町に住んでいました。喜平図書館のすぐ近くでした。当時、同じ団地に住んでいた友人に勧められて入会しました。2009年のチャリティ古本市を手伝ったのがきっかけで、さまざまな活動に顔を出すようになりました。この会のいいところは、“ざっくばらん”で“ゆるーい感じ”という点です。いまだき珍しく、他の人の話をよく聞くことができる“大人の集まり”といえます。

## ◆ 最近読んだ本

『漂流』 角幡唯介 (新潮社・2016年)

角幡唯介さんは、1976年北海道芦別市生まれのノンフィクション作家・探検家。自身の探検体験を綴った著作が多いのですが、『漂流』は1994年冬、37日間の漂流の後、奇跡の生還を遂げた沖縄宮古諸島(池間島)のマグロ漁師の足跡を追ったもの。この漁師は九死に一生を得たにもかかわらず、8年後、再び出港し二度と戻らなかった。この漁師を突き動かしたのは何だったのか。沖縄、グアム、フィリピンなどで関係者をたんねんに取材し、漁師の生きざまを追った渾身の長編ノンフィクション。かつての沖縄の人々の生活を知り、身震いするような感動をおぼえました。



# 学習会報告

## 声に出して本を読む会

—「第14回 ことばの玉手箱」発表を終えて—

私たちは、2006年1月、喫茶店の一室での発表会を機に、誕生しました。

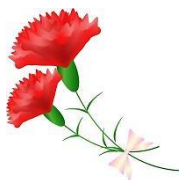
当時の朗読ブームや会員の要望もあり、故・内山恵司さん（俳優・東宝演劇）や、演出家の小野田正さんの、ご指導も得つつ演習の回を重ね、できれば成果発表の機会をと、2006年1月19日、第1回発表会を開催、その後「ことばの玉手箱」と銘打って継続的に開催することになり、今日に至っています。

「声に出して本を読む」という当り前のことが、読解力や発表技術の難しさに躊躇しつつも、さらには、ピアノ、チェロ演奏家のご支援を得て、会員それぞれ、高揚感を味わい、活動に弾みをつけつつ、第14回を迎えるまでになり、2018年11月23日（祝・金）午後、西東京市・コール田無で開催、「秋に…「ものがたり」をよむ」のテーマで、第一部を「今昔物語」（田辺聖子）、「仙人」（芥川龍之介）より、第二部を「セロ弾きのゴーシュ」（宮沢賢治）、「まど・みちおの詩」を、ピアノ、チェロ、さらには照明などの技術的ご協力も得て、満席の会場からの暖かいご声援に支えられながら、成功裡に終えました。

これらの経験を大切に、つねに「初心に立ち返る」地道な活動が継続されること、今後とも、感動を共有できる「つどい」がもてるよう、出演者一同、第15回開催をめざします。（雑崎亮平）



2018. 11. 23 コール田無  
「声に出して本を読む会」第14回発表会



## 読書サークル・小平

隔月1回（奇数月）、日曜日の午後、主に小平市中央公民館和室で例会を行っています。

会員以外も参加できます。

— 2018年11月から2019年3月までのテキスト —

■第49回 2018年11月25日

広井良典 著 『持続可能な医療』 ちくま新書（2018年）／西谷 格 著 『ルポ 中国「潜入バイト」日記』 小学館新書（2018年）

■第50回 2019年1月20日

斎藤美奈子 著 『日本の同時代小説』 岩波新書（2018年）

■第51回 2019年3月17日

新井紀子 著 『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 東洋経済新報社（2018年）

<予告>

次回日程 5月26日（日）14:00～

場所：中央公民館 和室つつじ

テキスト：吉見俊哉 著 『平成史講義』 ちくま新書（2019年）

## 図書館について学ぶ会

図書館について学ぶ会は、ハンディキャップサービス学習会と合同で活動しています

2018年10月からの上半期は図書館協議会の議論について勉強していくつもりでしたが、うまく連動できませんでした。2019年4月からの下半期は図書館協議会の提言を受けて実行計画策定が図書館協議会で行われるので、この計画の内容を注視していきたいと思います。図書館友の会の独自テーマとしては「カフェのある図書館」、「漫画のある図書館」についてリストアップして、参考になりそうな図書館を見学したいと思っております。更に著作権法改正がありましたので、この改正が図書館に及ぼす影響等も勉強していきたいと思います。

■ハンディキャップサービス学習会への名称変更

「障がい者サービス」からの名称変更にとどまらず、今まで図書館利用が困難であった人達への有形・無形のサービスの提供といった意味に拡大して

考えております。いわゆる「多文化サービス」もここに含めて考えています。

#### ■第20回ハンディキャップサービス交流会

図書館主催、図書館友の会協力のハンディキャップサービス交流会も第20回を迎えました。今回はハンディキャップサービスのお手伝いをされている方が多数参集され、図書館担当者等との質疑応答が活発に行われました。宅配サービス利用者の範囲の見直しも検討していくという図書館からの発言もありました。(塚本健男)

## YA を楽しむ会

YA読書会のたのしみは、作品の中の大人への入り口に立つ若い子供たちが繊細な感受性と鋭い感覚で厳しい現実にとまどい、それでも健気に立ち向かう姿に感動することですが、そのほかに、そこに集まるメンバーの感じ方を知ることもあります。

感想を話し合う中で自ずから考え方や性格などが理解され、自分との違いに気づいてあらためて自分を知るチャンスにもなります。

日常的な会話より深くお互いを知ることが出来ると思います。関心のある方は是非ご参加ください。

毎月第3金曜日 10時～12時 (鵜飼 恵)

— 2018年11月から2019年4月までのテキスト —

- 11月16日(金) 『ある晴れた夏の朝』 小手鞠るい 偕成社 / 『泥』 ルイス・サッカー 小学館
- 12月21日(金) 『青春のジョーカー』 奥田亜希子 集英社 / 『ヴァン・ゴッホ・カフェ』 シンシア・ライラント 偕成社
- 1月18日(金) 『列車はこの闇をぬけて』 デルク・ラインハルト 徳間書店 / 『ぼくがきみを殺すまで』 あさのあつこ 朝日新聞出版
- 2月15日(金) 『ジニのパズル』 崔 実 講談社 / 『墓場の少年 ノーボディ・オーエンズの奇妙な生活』 ニール・ゲイマン 角川書店
- 3月15日(金) 『足音がやってくる』 マーガレット・マーヒー 岩波書店 / 『ミルウィード 天使の羽のように』 ジュリー・スピネッリ 理論社
- 4月19日(金) 『素数ゼミの謎』 吉村 仁 文藝春秋 / 『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 岩波書店

## 図書館協議会報告

(2018年度下半期)

これまで「図書館協議会この半年」といった趣きで、直近の半年間の動きについて報告してきましたが、今回は最近の2年間をレンジにして報告しようと思います。

委員の任期が2年間で、図書館協議会から小平市中央図書館長へ提出する「提言」が2年に1度であることを考慮して、2年間の振り返りをやってみようと思った次第です。

今回の「提言」の題名は「これからの図書館のあり方」と名付けられ、最終的には中央図書館の機能の充実、地区館・分室の機能の見直し、という観点から今後の図書館のあり方を描く、壮大な構想となっています。その第一段階として、今回は総論を提言しました。

総論で掲げた構想を実行可能な計画にする実行計画は、2年後の協議会「提言」の役目となっております。

この2年間では、地区館・分室の見学会が開催されました。現場を見る大切さを改めて学んだ気がしました。利用者とは地区館・分室の密着度は、貸出統計を見ているだけではわからない点と感じました。

もう一点、この2年間の特別なこととして、図書館友の会の勉強結果である「司書について」を発表しました。私としては初めての経験で、緊張しましたが、良い思い出となりました。

(塚本健男)

### 図書館友の会に入会して いっしょに楽しみませんか？

文学散歩、歴史散歩、講演会  
他市の友の会との交流会  
図書館について学ぶ会、朗読会  
読書会、年に一度のチャリティ古本市 など  
年会費 おとな 1,000円  
大学・高校生 500円  
中学・小学生 300円  
いつでも入会できます  
会報表紙の連絡先へお問い合わせください

「絵本と絵本をひらくやさしい時間と」  
— 小平市立図書館ブックスタート見学 —

ブックスタートとは0歳児健診の折などに絵本を手渡ししながら絵本の楽しさと絵本を読んでもらう心地よさを体験してもらう活動で、1992年にイギリスで始まり世界に広がりました。小平市の図書館では昨年の4月から、3・4か月児健診に合わせてこのブックスタート事業をスタートしました。

会場である健康センター4階の視聴覚室にはオルゴールのやさしい曲が流れています。床には9片のマットが敷かれ、そのひとつひとつでお母さんと赤ちゃんにボランティアさんが読み聞かせをしていました。3か月の赤ちゃんですからまだ絵本は早いのでは……と思いがちですがお母さんの膝に抱っこされた赤ちゃんはじーっと絵本を見つめます。泣いている子はいないのです。椅子ではなくマットにじかに座ることでリラックスでき、あたたかなお母さんの膝のぬくもりとボランティアさんの優しい声が赤ちゃんをうっとりさせているようです。絵本を渡すだけでなく、絵本を介したふれあいの楽しさを親子に伝えたい——それがボランティアさんや図書館スタッフの願いです。

読み手であるボランティアさんは事業スタート前に募集し、数回の研修後に活動が始まりました。保母さんや先生だった方も多く、笑顔で親子を迎えます。終了時には集まって反省会を持ち、気づいた点や改良点を話し合います。待ち時間の多い健診でしたが、健診とブックスタートの流れを交差することによって待ち時間を解消する案もボランティアさんの提案から出たものです。

今年の絵本は「くだもの」(平山和子/福音館書店)と「がたんごとんがたんごとん」(安西水丸/福音館書店)で、どちらかを選べます。

どちらの本を選ぼうかな? うれしそうに迷うお母さんの横顔がそこにはいくつもありました。

(剣持 記)



お父さんも一緒に

イベントのお知らせ

小平図書館友の会 主催 講演会

「平櫛田中氏の寄贈資料から」

2019年6月15日(土) 13:30~15:30

小平市中央図書館3階 視聴覚室

講師 大沼晴暉(おおぬま・はるき)さん

(書誌学・民族学者、小平市図書館協議会委員)

定員 80人 先着順(申込不要)

費用 無料 ※満席になりしだい入場をお断りすることがあります

小平図書館友の会 主催

**平櫛田中氏の寄贈資料から**

講師 大沼晴暉

日本近代彫刻の巨匠、平櫛田中氏の旧蔵書がお孫さんの平櫛弘子氏より小平市に寄贈されました。中央図書館で「平櫛田中文庫」として公開しています。この資料は田中氏の創作活動の基礎となったものであり、日本の図書の歴史を俯瞰できる質と量とを持っています。資料の整理にあたられた大沼晴暉氏に田中文字庫の意義と面白さを語っていただきます。

平櫛田中氏(昭和37年に文化勲章を受章、昭和45年、台東区から小平市学園西町に転居し、昭和54年に107歳で亡くなるまでの約10年間を過ごしました。昭和47年には小平市名誉市民に推戴されました。)

小平市立図書館 平櫛田中文庫 蔵書検索  
<https://library.kodaira.ed.jp/cms/>

とき 2019年6月15日(土) 13:30~15:30

ところ 小平市中央図書館3階 視聴覚室  
小平市小田町2-1225 (西武多摩線「有楽町線」駅下車 徒歩5分)

講師 大沼晴暉(書誌学・民族学者、小平市図書館協議会委員)

定員 80人 先着順(申込不要) ※満席になりしだい入場をお断りします

費用 無料

主催 小平図書館友の会 お問い合わせ先: プログラム課(メール)または  
中央書2127 [http://info@shinryu-shinryu.com](mailto:info@shinryu-shinryu.com)

後援 小平市教育委員会

日本近代彫刻の巨匠、平櫛(ひらくし)田中(でんちゅう)氏の旧蔵書がお孫さんの平櫛弘子氏より小平市に寄贈されました。中央図書館で「平櫛田中文庫」として公開しています。この資料は田中氏の創作活動の基礎となったものであり、日本の図書の歴史を俯瞰できる質と量とを持っています。

資料の整理にあたられた大沼晴暉氏に田中文字庫の意義と面白さを語っていただきます。

平櫛田中氏は昭和37年に文化勲章を受章。昭和45年、台東区から小平市学園西町に転居し、昭和54年に107歳で亡くなるまでの約10年間を過ごしました。昭和47年には小平市名誉市民に推戴されました。

小平市立図書館 平櫛田中文庫 蔵書検索 <https://library.kodaira.ed.jp/cms/>